

大池公園さくら再生ワークショップニュース No.2



第2回ワークショップ 2021/1/30 (土) AM9:30~12:00

『大池公園のさくらの将来像について区域ごとに考える』 参加者 12名

第2回ワークショップでは、参加者の皆さんから大池公園の①これからは残したい(お気に入り)区域、②つくりなおしたい(ダメなところ)区域、③その他(こんなことがしたい)の区域を出していただき、意見交換しました。その後、意見が多かった区域について現地での意見交換も行い、どうしていくのが良いか話し合いました。同時に、さくらを守る技術について、管理事務所前駐車場東側のウスズミザクラと競合しているクロガネモチの枝の剪定を、樹木医さんに解説いただき、作業を見学しました。ご参加の皆さんお疲れ様でした。

参加者：応募市民、樹木医、事務局、東海市

令和2年度ワークショップ全体スケジュール

第1回ワークショップ【11月28日(土)】

済

『大池公園のさくらを診(み)て、学び、考える』

- ・さくら現況調査及びアンケート結果の説明
- ・樹木医とさくらを診みて歩く(生育状況、環境)
- ・さくらを守る技術を学ぶ(診断と手入れ<施肥・剪定>)
- ・参加者の意見交換~大池公園のさくらの将来像について考える

第2回ワークショップ【2021年1月30日(土)】

済

『大池公園のさくらの将来像について区域ごとに考える』

- ・大池公園の気になるところ、ダメなところ、こんなことがしたい
- ・意見交換に基づく現地散策~課題の再発見~
- ・さくらを守る技術を学ぶ(支障木の剪定)

第3回ワークショップ【2021年3月27日(土)】

『大池公園のさくらの開花状況を確認しよう』(予定)

- ・樹木医とさくらの開花を診(み)て歩く
- ・さくらを守る技術を学ぶ(手入れ3回目)
- ・令和2年度ワークショップまとめと令和3年度の取組の確認

ワークショップとは・・・

参加された住民の皆さんの意見交換により大池公園の手入れや再生計画を決めていく会合です。作業や自由な話し合いをして頂きながらアイデアをまとめていき、市は結果を計画に反映し実施していきます。

□大池公園(東海市中央町三丁目、面積約24.8ha)は1973年(昭和48年)に緩衝緑地として開園。さくらの名所として毎年春にはソメイヨシノが咲き誇り、最近ではライトアップも行われ花見の名所となっていますが、開園後約50年が経過し、ソメイヨシノの老木化が目立ってきました。

□『大池公園さくら再生ワークショップ(50年後に引き継ぐ大池公園のさくら)』では、このソメイヨシノをこの先も楽しめるように維持し次世代に引き継いでいくとともに、大池公園にさくらの名所としての魅力を付加し、再生させることを目指しています。

□現在、皆でソメイヨシノの手入れや再生の計画づくりを行っていくワークショップが進行中です。今年度あと1回、3月27日<土>開催予定ですので、是非ご参加下さい。

第2回さくらの将来像について現地で考えたところ



第2回サクラの将来像についての主な意見

① これからも残したい、気に入っている区域

- ・並木通り（西側池沿い）
- ・展望の丘のエドヒガンザクラが良い

② 作り直したい（ダメな所を直したい）区域

- ・彫刻の広場園路沿にヤエザクラを増やしたい
- ・多目的広場南西池沿芝地に十月桜を増やしたい
- ・芝生広場南の池周りの桜まつりのメインの場所の老木を植替えて市民で見守っていききたい（池沿いのさくらはあった方が良い。ガチョウの池東側も新植できるのではないかな）

③ その他（こんなことがしたい等）区域

- ・ライブカメラを俯瞰できる位置に設置
- ・観光協会SNS、施設管理協会メルマガで定期的発信実施している
- ・公園北側新ルートインから市役所までの散策が期待できるので、さくらを増やして回遊性を高めようか

さくらの品種について樹木医さんから説明

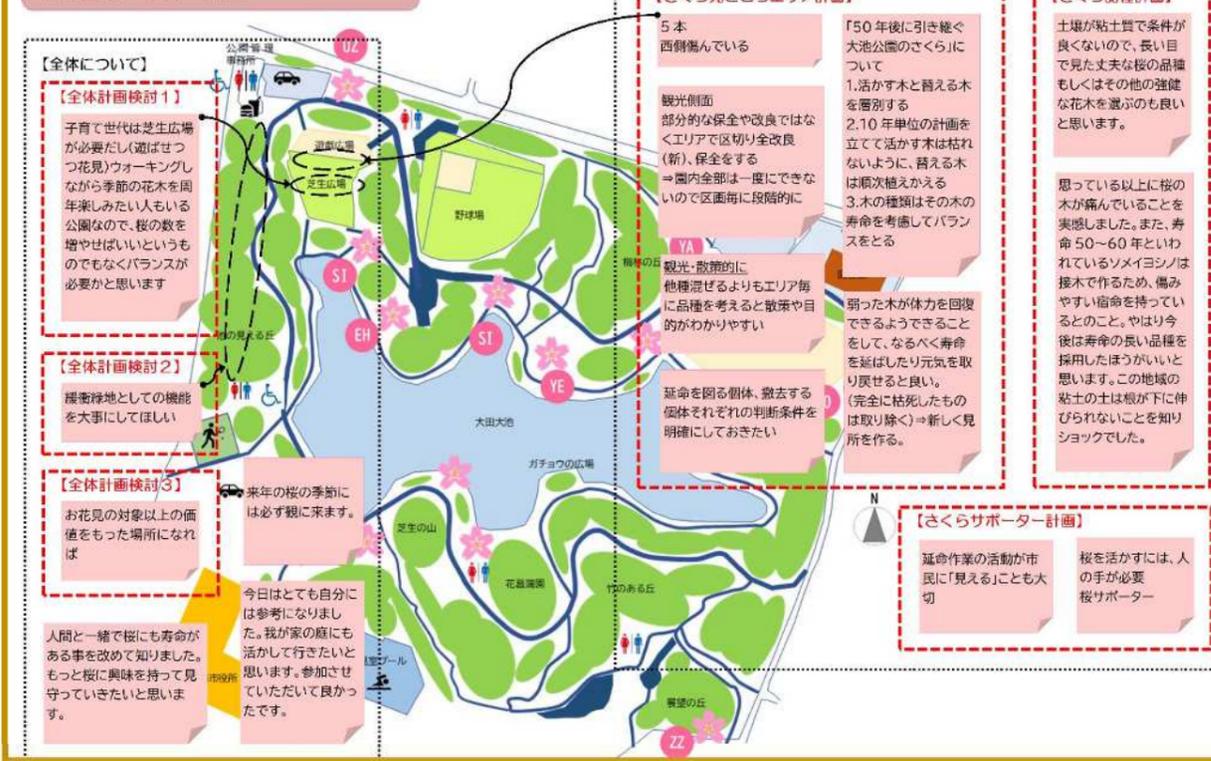
- ・野生種と栽培種に分かれる（野生種は、原種11種クマノザクラ含む）
- ・エドヒガンザクラは野生種で長寿命
- ・ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの交配種
- ・シダレザクラやウスズミザクラは元々エドヒガンザクラ
- ・十月桜は開花が10月から3月、花が小さい、マメザクラとエドヒガンザクラの交配種といわれている
- ・一般的に野生種は丈夫で、エドヒガンが群を抜き、山高神代桜（山梨県北杜市）は推定樹齢1,800年とも2,000年とも言われるエドヒガンザクラ（福島県の三春滝桜・岐阜県の淡墨桜と並ぶ日本三大桜の一つ）、ただしオオシマザクラは短命で傷みやすいが、繁殖容易で成長が早い

第1回主な意見

第1回ワークショップでの主な意見
① 大池公園のさくらの現状調査・「さくら再生」市民アンケート結果について



第1回ワークショップでの主な意見
② 大池公園のさくらの将来像について



ワークショップ問合せ
東海市都市建設部花と緑の推進課 ☎476-860 | 東海市中央町一丁目 | 番地
☎ : 052-603-221 | Email : hanamidori@city.tokai.lg.jp

第1回参加者アンケートの回答

ワークショップの感想

- ・樹木医の方の診断を初めて見せて頂き楽しかった。
- ・普段からよく利用している大池公園がまもなく50周年で、桜がずいぶん老朽化していることを実感できたこと、それを今後どうしていくかということを考える場に参加できたことは、私にとって有意義な時間でした。が、同時に主催者様側にとっては今回のワークショップの目的は何だったのか、そしてその目的は果たせたのかという疑問もあります。
- ・樹木医さんの話を聞きながら実際の樹木の状況の説明は理解しやすく、現状をより把握することが出来ました。
- ・実際に公園を利用されている市民に対してどの様に状況を説明して処置をしていくかの方向性を詰めていきたいですが、取り扱われる話題の特性的に若い人には刺さりにくいので、意味や効果が出る公開方法にするよう工夫が必要で難しい点であると思います。
- ・明確なアイデアはまだ詰まっておきませんが、中長期的に植樹などを行っていくと思います。市内の小中学校に話題として取り扱ってもらい、また、担当学校を順番に決めて植樹等の作業を学生によるワークショップ化で若い層からの認知を図る。代表学生によるワークショップ参加で、その後のホームルームや全校集会等で報告会を実施などがよいですね。

次回からのワークショップで取組みたいこと

- ・今回意見が出ていた「さくらサポーター」的な活動をする人たちがいるとよいので、あればですが（施肥など市民の手を借りてやれるような桜を守る作業があるのであれば）、そのような活動の内容等を検討する、その募集方法も検討する。
- ・50年以上たった他の公園等での植え替えなどの例を知りたい。
- ・本企画の取り組み方については、現手法の市民への公募だけによるワークショップのメンバー構成ですと、効果や結果が出る取り組みになるのが難しい気がします。どこまでいっても専門家ベースの計画で取り組みをしていくしかないと思うのですが、その計画に対して市民の個人的な感想/意見を確認する段階にしたいほうが良いかと。
- ・現状報告からの生産的な意見が市民から上がるとはあまり思えない。ないし、招聘で市内で大池公園に絡んでいない造園屋や花き業者等の近い専門業者も参加させる等、現状の手法のままであれば意見集約ではなく、作業寄りのワークショップに振った方が意味が出る気がします。

その他気が付いた改善点

- ・今回のワークショップと残り2回で、どこまでのことを話し合い決めよう（意見を集めよう）としていっちゃうのか。この桜の件が、市の計画では現段階でどこまでどのように話が進んでいるのか（またはまだその前なのか）というのが、私には見えないままワークショップが始まり終わったので『自分のような知識も何もない者が参加するようなことで良かったのかな』と行ってしまいました（一般市民に広く意見を求めたい段階なら、もっと別の方法が良いのかなと思いました）。ありがとうございました。
- ・（観光資源の観点1：先々の取り組み方）…より観光資源化していくという意味合いで、花しょうぶ園の様にエリアが明確化されている区画づくりで園内の各所にテーマパーク的な名称をつけることが出来る再生計画にしていこう。四季桜のお話を伺い、より大池公園内に特定の花や樹による「○○○園」といった名称を作れる計画にして、分かりやすく観光目的を作れるようにする。
- ・（観光資源の観点2：非現実的ですが）…違った観光資源の観点で、より「池」を活用した中長期の計画が出来ないか？ 池に反射して見える桜等を効率的に見ることが出来る区画が少ないので増強し、池のある公園らしい桜のみどころを増やす。池側のさくらが増強される頃に、和船による桜遊覧等を展開。そして大池公園を池からみる桜として新たな観光資源に。